

「環境モデル都市」に即した情報発信拠点を整備

浜町商店街振興組合

機関名	浜町商店街振興組合			
所在地	熊本県水俣市浜町 1 - 2 - 2			
電話番号	0 9 6 6 - 6 3 - 2 7 6 3			
地域概要	(1)管内人口	3 万人	(2)管内商店街数	7 商店街
事業の対象となる 商店街の概要	(1)商店街数	1 商店街	(2)会員数	34 商店
	(3)空店舗率	- %	(4)大型店空き店舗数	- 店
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 <u>3. 地域型商店街</u> 4. 近隣型商店街			

【事業名と実施年度】

平成14年度 空き店舗対策事業

「環境モデル都市づくり」を推進する水俣市の方針に即し、空き店舗を活用した各種事業を実施

- ・環境学習の受け入れ（リサイクルガラス歩道道路、空き缶回収機の導入、エコショップ推進活動の取り組みの紹介）
- ・地産地消の推進（地産地消チャレンジショップの実施）
- ・商店街等情報の発信、イベントの開催

総事業費

9,000千円

【事業実施内容】

1. 背景

浜町商店街振興組合は水俣市において最も歴史のある商店街のひとつであるが、会員数、客数、売り上げともに減少傾向にある。また、徳富蘇峰・蘆花の生家、源光寺、永代橋跡など、市の歴史文化を醸し出す資源が点在しているが、その資源を十分に活かしてきれていない状況である。

これに対し、同商店街では、春・夏祭り等のイベントのほか、これらの歴史文化資源をPRするための修学旅行生や観光客の受け入れに積極的に取り組んできた。このほか、水俣市が推進する環境モデル都市づくりに即して空き缶回収機の導入を行い、エコショップ（環境への負荷を軽減した取り組みを行う店舗）認定の店舗も



水俣市の位置

浜町商店街振興組合

存在するなど、環境に配慮した商店街活動を推進している。

2. 事業内容

空き店舗（旧米沢百貨店：売り場面積60平方メートル）を有効活用して、水俣市が進めている「環境モデル都市づくり」の実現をキーワードに、商店街に「環境と健康」に関する情報を発信する拠点となる「たのしや」を整備した。さらに、近年増加傾向にある教育旅行をはじめとした環境学習・研修の受け入れを実施し、商店街や個店、点在する歴史文化資源、観光案内等の情報を提供した。また、地産地消の推進、環境を軸とした魅力あるイベントの開催など、地域性のある活性化対策事業を展開することで、当商店街や水俣市中心市街地の活性化を図った。

(1) 環境学習の受け入れ

水俣市を訪れる修学旅行生をはじめとした環境学習、研修生の受け入れを行った。受け入れ実施の際には、観光振興団体である観光物産協会みなまた、水俣病資料館、環境クリーンセンターなどの環境関連施設、水俣産業団地内のエコタウン立地企業等と連携し、中心市街地内にお客を呼び込む拠点となった。

「たのしや」では、ごみの23分別や、リサイクルガラス舗装道路・グラスロード、エコショップ推進活動等の取り組みを紹介したほか、リサイクルアートガラス工房を設置し、製作実演、体験をしてもらいながら、環境に配慮した商店街の形成による集客を図った。

(2) 商店街情報発信、イベントの開催

「たのしや」の周知を図り、環境に配慮した商店街の取り組みや地域資源の活用、将来を担う子供達が地元を楽しみと誇りを持ってもらうこと等を目的として、平成14年10月19日のオープン当初からウルトラクイズ、歴史探訪ツアー、リ・グラスナイト、スタンプラリー等の各種イベントを実施した。

また、商店街や街なかの情報の提供（タウンマップ、パンフレット等）、商店街や個店の魅力紹介チラシ、街なかに存在する名所旧跡や文化人など歴史文化資源の紹介等、中心市街地活性化に係る様々な情報を市内外に発信した。

(3) 地産地消の推進

地域で生産された安心安全な品物を地域内で消費することをコンセプトに、水俣の旬の情報とともに展示PRすることで、商店街への集客と地産地消の推進を行った。また、市民参加による「売ります・買いますコーナー」を設置し、地域内でのリサイクルの推進、情報交換、交流の場を提供した。

(4) 広報活動

各種メディアを活用して、「たのしや」そして中心市街地へ足を向けてもらうため、各種活動をPRした。

(5) 各種調査

定期的に事業の効果を測定すること、商店街内での周知を図り、コンセンサス形成に努めること、また実際に買い物をする消費者のニーズを的確に把握し、今後の「たのしや」運営及び活性化を円滑に推進するための参考として、アンケートや聞き取りによる各種調査を実施した。

- ・オープン当初のお客様アンケート
- ・お客様ヒアリング調査

- ・活性化委員会アンケート
- ・商店街組合アンケート

(6) 視察研修

商店街の活性化として成功している先進事例の調査事業を実施し、今後の活性化に向けた参考とした。

視察日程及び視察：平成15年2月2日～2月3日

視察研修先：福岡県北九州市 魚町商店街、福岡市 唐人町商店街

【効 果】

街なかの中心部に地域の情報発信、環境学習受け入れの拠点を整備することで、既存のエコパークやエコタウン内の環境学習関連施設と連携した環境学習の新たなメニューが加わった。また、地産地消の推進や環境を軸として魅力あるイベント等を開催していくことによって、水俣市の進める「環境モデル都市づくり」に即した商店街活動が推進されるとともに、市内外の来街者による街なかの回遊性につながり、商業だけでなく観光・物産をはじめとする他の産業分野との有機的な連携による相乗効果も促進された。

環境学習については、20の個人・団体で、延べ151人の視察研修を受け入れた。また、リサイクル・ガラスアート教室は22回実施した。なお、本事業は平成14年3月をもって終了した。

【課 題 ・ 反 省 点】

商店街活性化委員のアンケートでは、以下のような課題が挙げられた。

- ①女性の意見をもっと積極的に取り入れ、店づくりをしていく必要がある。
- ②活性化事業の一環として行ってきたが、組織としての運営の難しさ、単年度補助事業の難しさを感じた。
- ③時間をかけてもお金がかからない事業が望ましい。
- ④店で何をやっているのか、売っているのかが伝わりにくい。
- ⑤このような事業の実施にあたっては、商店街の横のつながりが重要である。
- ⑥ガラス製品を全面に押し出し、売り上げにつなげるように持っていけたらと思う。

【教 訓】

本事業は商店街活性化委員の手づくりで、未利用であった米沢百貨店の店舗を改装し、「たのしや」として地域資源を活かした多くの事業を展開することができた。しかし、補助事業期間としては平成14年度の単年度であり、時間的な制約もあってこのような取り組みを継続させていくことが困難であった。

当商店街から中心市街地全体へと活性化策への取り組みを波及させていくためには、水俣商工会議所（TMOみなまたとして設立予定）、エコタウン企業、観光物産協会エコみなまた、行政等の関係機関・団体との連携をさらに密にすることで、街なかにおける環境学習研修や、情報発信の場として、さらなる充実を図っていく必要がある。

また、このような施設の運営にあたっては女性の視点、そして市民を巻き込んだ消費者の視点を大切にする必要がある。よりよい店にしていくのはやはり「人」であり、その人とは、店主はもちろん、店を利用するお客、消費者であると考え。そのためにも店づくりに際しての人材は広くオープンにして、ともに作り上げていこうという姿勢で事業に取り組むべきである。



ガラス細工と交流
——
「たのしや」オープン

水俣市中心部の浜町商店街に十九日、空店舗を利用した情報発信施設を中心に、「訪ねて楽しむ」がオープンした。ガラスの体験工房

水俣市浜町

水俣市中心部、浜町商店街の一角にオープンした「たのしや」

い、体験して楽しい」店作りを進め、商店街全体の活性化につなげる取り組みだ。

オープンしたのは、七年ほど前に閉店した旧百貨店の店舗跡。国と県、地元商店街で出資した。メインはガラスの体験工房。水俣エコタウンに進出しているビンのリユース会社と連携し、同社で再生できないビンを使いガラス細工の実演、販売を行う。市民向けの体験教室も開催する。

また、市民による不要品売買の情報コーナーや各店の商品コーナーなど、商店街の顔、中核として活用するという。

同商店街の長山久夫理事長(左)は「中心部商店街に人通りがなくなったのは、各地共通の悩み。人を集めることも、地元の人が気軽に集える拠点にしたい」と期待を込めていた。

「たのしや」のオープンを伝える新聞記事（平成14年10月20日西日本新聞）